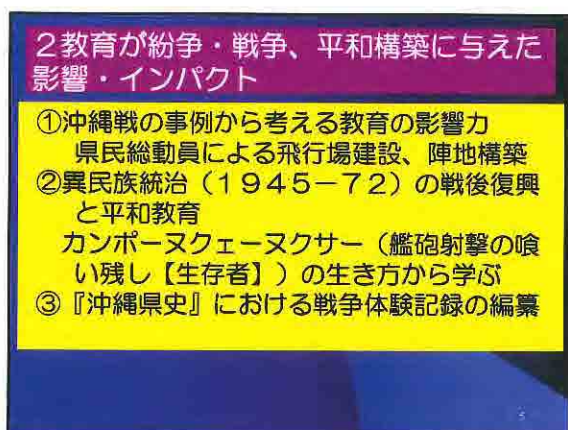
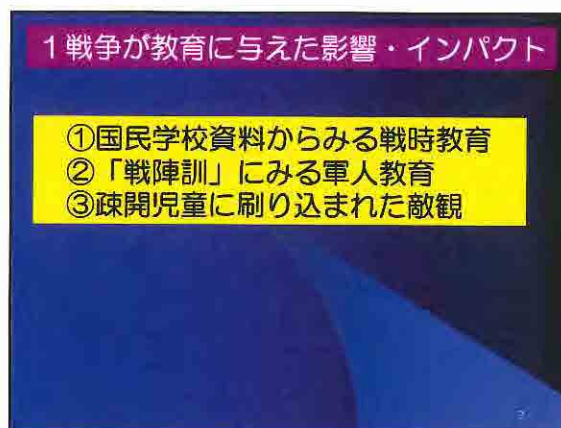


C. 沖縄の戦中・戦後体験から考える平和創造の取り組み



鉄の暴風

米軍が使用した大小の弾数の総数: 35,119,000発
 県民一人当たり59発被弾したことになる。

写真: 沖縄県平和祈念資料館所蔵

県内各地に造成された飛行場

軍機を語るな
 県縄沖

根こそぎ動員の実態

沖縄で捕虜になった熟練技術と戦術経験
 1945年6月20日

沖縄山岳守備隊 (山岳守備隊) の記録
 (The Record of the Mountain Defense Force, Okinawa, 1945)

写真・資料:
 沖縄県平和祈念資料館所蔵

米軍の進撃経緯('45.3.26~6.21)

沖縄島の戦闘経緯
 The Course of the Battle of Okinawa

兵力
 日本 約 100,000
 米軍 約 100,000

戦死者数
 日本 約 100,000
 米軍 約 100,000

正規軍人を上回る住民犠牲

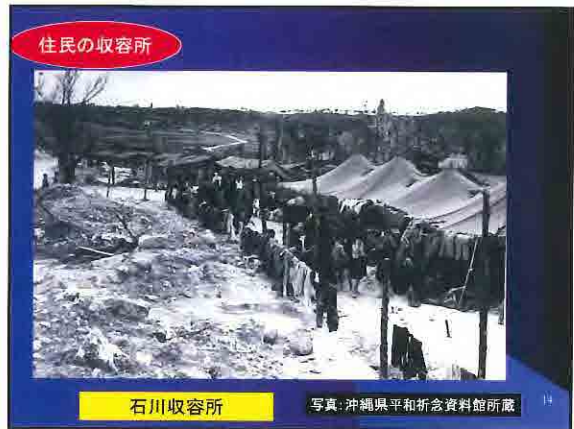
戦死者数 188,136人	一般住民 94,000人	戦死者数 12,520人
戦死者数 188,136人	戦死者数 94,000人	戦死者数 12,520人

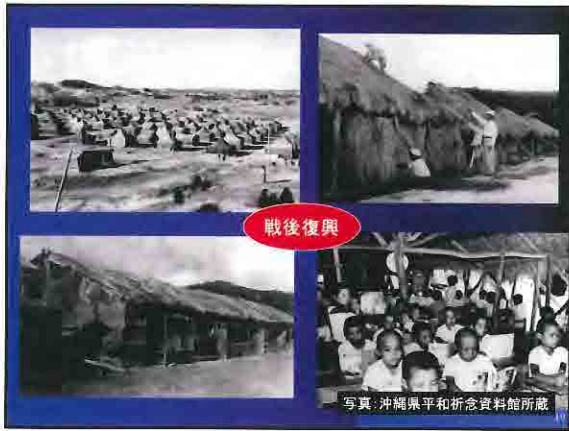
戦死者数 188,136人
 一般住民 94,000人
 戦死者数 94,136人

戦死者数 12,520人

集団死と思われる状況

写真: 沖縄県平和祈念資料館所蔵





戦後復興

写真：沖縄県平和祈念資料館所蔵



沖縄戦で破壊された文化財

國比屋武御嶽

写真：沖縄県立博物館・美術館所蔵

1950年代に修理後

破壊以前の姿

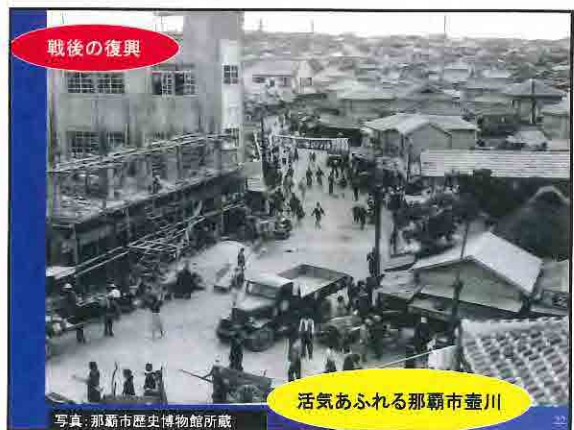
写真：沖縄県立芸術大学
図書・芸術資料館所蔵



旧国宝で沖縄戦で焼失
昭和33年(1958)に復元
され、復帰の3日前の
昭和47年(1972)5月12日
に指定された復元文化財
守礼門

琉球郵便
1958

守礼門の復元を記念して
発行された3セントの琉球切手



戦後の復興

活気あふれる那覇市壺川

写真：那覇市歴史博物館所蔵

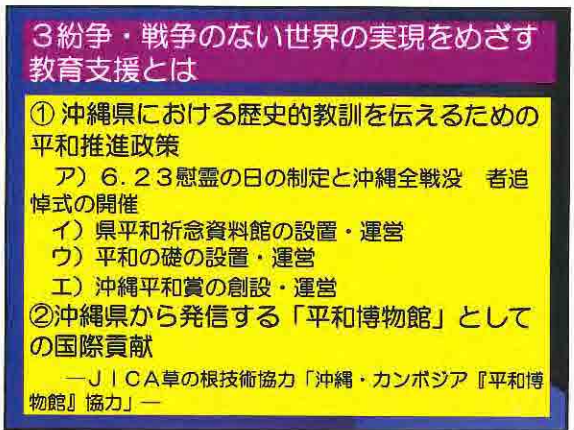


戦争体験・名も無き人々の記憶の継承

『鉄の暴風』(1950年／沖縄タイムス社)

- ①沖縄人の立場で、沖縄戦の事実には依拠すること。
- ②軍の作戦の動きではなく、住民の動きに視点を置く。
- ③正しい記録文学。戦場の異常性を強調する猟奇的傾向がないように。
- ④主観を排し、文学的描写を控え、事実そのものを記録する。

『沖縄県史 沖縄戦記録1』(1971年)
『沖縄県史 沖縄戦記録2』(1974年)
『沖縄県史 通史』(1976年)



3紛争・戦争のない世界の実現をめざす
教育支援とは

- ① 沖縄県における歴史的教訓を伝えるための
平和推進政策
 - ア) 6.23慰霊の日の制定と沖縄全戦没者追悼式の開催
 - イ) 県平和祈念資料館の設置・運営
 - ウ) 平和の礎の設置・運営
 - エ) 沖縄平和賞の創設・運営
- ② 沖縄県から発信する「平和博物館」としての
国際貢献
 - JICA草の根技術協力「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」—

沖縄県における歴史的教訓を伝えるための平和推進政策

- ①6. 23慰霊の日の制定と沖縄全戦没者追悼式
- ②県平和祈念資料館の設置・運営
- ③平和の礎の設置・運営
- ④沖縄平和賞の創設

沖縄県から発信する「平和博物館」としての国際貢献「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」 (JICA軍の根拠所協力)

カンボジアの位置

日本国
沖縄県

カンボジア国
プノンペン市

**カンボジア国立
トゥール・スレン虐殺博物館
1979年7月19日に開館する**

トゥール・スレン博物館の建物配置構成図

敷地面積: 23, 290㎡
1棟あたり建築面積: 1, 728㎡
展示室の延床面積: 1,728 × 3F × 4棟 = 20,736㎡

S21に収容された人々に強要された
自白書(多い人だと1人3000ページに及ぶ)

4 平和創造の糧としての次代へ引き継ぐ 記憶遺産

—歴史の教訓から学び、理解し、平和を
創造する行動原理を獲得すること—

学校教育・生涯教育機関で平和を志向し創造
する行動原理をもつ人材を育成する

次代、未来の命を奪うことの罪

当事者意識の醸成

2つの側面を客観的に捉える視点



D. 紛争後の教育支援 「南スーダンの事例」

World Vision

「EFA グローバルモニタリングレポートシンポジウム2011ー教育と紛争ー」

紛争後の教育支援～南スーダンの事例



特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
海外事業部 緊急人道支援課
伊藤 真理

World Vision



◆民族(アラブ系40%、アフリカ系31%)

◆公用語(アラビア語、英語)

◆面積(250万km²・日本の約6.6倍、アフリカ大陸最大)

◆人口(3,915万人(2008年))

◆首都(ハルツーム)

World Vision

南部スーダンの地図



アッパーナイル州
(ワールド・ビジョン・ジャパン支援対象地域)

World Vision

スーダン南北和平に向けての動き

- 1955年 英国・エジプトからの独立運動下での内戦勃発
- 1956年 スーダン共和国独立
- 1972年 アジス・アバハ合意署名により第一次内戦終結
- 1983年 第二次内戦勃発
- 1989年 ハシール政権成立
- 2005年 南北包括和平合意署名
- 2010年 総選挙実施、ハシール大統領再選、サルヴァキール南部政府大統領当選(4月)
- 2011年 南部独立を問う住民投票実施(1月)

World Vision

スーダン南北内戦の結果 果生じた避難民数



難民 35万8千人
国内避難民 約400万人

エチオピア

中央アフリカ
コンゴ民主共和国
ウガンダ ケニア

World Vision



自由獲得に歓喜

朝日新聞 2011年2月9日朝刊

World Vision

スーダン南部の現状※1

指標	
人口(2008年)※2	8,260,490人
出生時平均余命(2004年)	42歳
5歳未満死亡率(1000人あたり)(2006年)※3	135人
成人の識字率(2009年)※4	27%(女性16%、男性40%)
初等教育就学率(2009年)※5	48%
国民一人当たり所得※6	US\$ 2,051(スーダン全体の統計)

出展
 1. 上記の統計は、国民一人当たりのGDP以外はスーダン南部のものである。情報源は、UNICEF, UNFPA, Southern Sudan Commission for Census, Statistics and Evaluation (SSCSSE)
 2. Central Bureau of Statistics and Southern Sudan Centre for Census, Statistics, and Evaluation, 5th Sudan Population Housing Census 2008 - Priority Results submitted to the Presidency by Population Census Council, 28 April 2009
 3. Sudan Health and Household Survey 2009
 4. National Baseline Household Survey 2009
 5. National Educational Statistical Booklet, EMIS, Ministry of Education (2009)
 6. UNDP Human Development Report 2010

7

World Vision

南北和平前のスーダン南部のカリキュラム

- 1972~83年 南部スーダンで二つの教育言語を使用—バハル・アルガザール地域とアッパーナイル地域ではアラビア語、エクアトリア地域では英語が教育言語として使用された。その結果、アラビア語学校、英語学校とに分かれた。当時のカリキュラムは南部スーダンや地域の状況に即したものではなかった。
- 1983年、ヌメイリ政権のイスラム化運動の一環として、スーダンをムスリム・アラブ国家にする意向が示され、イスラム法(シャリア)が敷かれ、イスラム教に則ったカリキュラムとアラビア語を唯一の教育言語としてスーダン南部に強要したことも、第二次南北内戦の発端となった。

8

World Vision

南北和平後のスーダン南部のカリキュラム

新スーダン初等教育のカリキュラムは1990年代後半より、UNICEFやUSAIDが、スーダン南部のカリキュラムの改訂を支援し、改訂が行われた。

内戦中の緊急に焦点を当てたものからより復興・開発を意識し、自立した市民を育てることを目的としている

全14教科(母語、英語、アラビア語、数学など)スワヒリ語が含まれているのは、東アフリカ共同体を意識したものであるが、現在、教科書が作成されているのは英語、数学、理科、社会のみで、一般の小学校では授業もこれらの4教科を扱っているに過ぎない。

Subject	P1-P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
Mother Tongue	10	1	2	2	2	2	2
English	5	5	7	7	7	7	7
Arabic	-	-	4	4	4	4	4
Mathematics	5	7	7	7	7	7	7
Science	5	4	4	4	4	4	4
Religious education	4	3	3	3	3	3	3
Home Science	-	3	3	3	3	3	3
Music	3	2	2	2	2	2	2
Physical Education	3	3	3	3	3	3	3
Art and Craft	-	3	3	3	3	3	3
Health	-	3	3	3	3	3	3
Social studies	4	3	3	3	3	3	3
Business Education	-	3	3	3	3	3	3
Hours per Week	30	30	30	30	30	30	30

11

World Vision

南北和平後のスーダン南部のカリキュラム(続)

- 「社会」は南部スーダンのコミュニティ、文化などに影響
- 母語については、2010年4言語の教科書が作成されているが、一部地域でパイロット授業が行われているのみである。
- また教員養成校も英語、数学、理科、社会、教育専門科目の5科目についてのみシラバスがあるだけであり、実際にはほとんどの教科が対応できていない状況である。

Subject	P1-P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
Mother Tongue	10	1	2	2	2	2	2
English	5	5	7	7	7	7	7
Arabic	-	-	4	4	4	4	4
Mathematics	5	7	7	7	7	7	7
Science	5	4	4	4	4	4	4
Religious education	4	3	3	3	3	3	3
Home Science	-	3	3	3	3	3	3
Music	3	2	2	2	2	2	2
Physical Education	3	3	3	3	3	3	3
Agriculture	-	3	3	3	3	3	3
Health	-	3	3	3	3	3	3
Social Studies	4	3	3	3	3	3	3
Business Education	-	3	3	3	3	3	3
Hours per Week	30	30	30	30	30	30	30

12

World Vision

南北和平後の教育言語

- 英語
 - スーダン南部の公用語は英語やアラビア語であるが、実用的に英語を使用(スーダン南部2005年憲法第6条(6))
 - 英語がスーダン南部の教育言語
- 母語
 - 子どもたちが、読み書きや理解するなど基礎を身に付けるため、小学校1年~3年までの教育に使われる言語。それ以降は科目として習う。

11

World Vision

南北和平後の教育言語の課題



- コンゴ民主共和国(フランス語)、中央アフリカ共和国(フランス語)、エチオピア(アムハラ語)、エジプト(アラビア語)や北部スーダン(アラビア語)からの帰還者は教育言語の問題に直面。
- 教育言語が英語であるため、アラビア語で教育を受けた教師が教えることが出来ない。
 - 東アフリカからアッパーナイル州に帰還した子どもが、教師が英語で教えることが出来ず、「難民キャンプに戻りたい」とUNHCRに頼んだという報告があった。
 - 支援地域のアッパーナイル州マニョ郡の教師の95%がアラビア語を教育言語、5%のみが限られた英語の知識を持っている。限られた英語の知識を持った教師が校長として配属されている。これはアッパーナイル州だけではなく、ウガンダやケニアとの国境沿い以外では同様の問題を抱えている。
- 母語がカリキュラムに入っているが、シラバスも教科書もないため母語を体系的に教えられる教師がいない。

12

World Vision

課題—教育へのアクセス—

- 40万人の児童が33.9万カ所の教育施設で学ぶ
- 150万人の子どもたち、主に女児が未就学
- 教育施設の多くには年齢が上の生徒が使用しているため、さらに5,829教室が必要 (UNICEF 2004)
- 82%の就学年齢にある女児が未就学 (EMIS 2009)
- 女児の高いドロップ・アウト率
- 1教室に129人の子どもたちが学ぶ地域がある
- 学校までの距離が非常に遠い。道路は未整備であるため、雨季には、低学年の児童は学校までのアクセスがさらに困難。
- セキュリティの悪さ

13

World Vision

多くの学校では、学齢期を越した生徒が大部分を占めている。たとえば、ワウという町の小学校では、70名ほどの小学校5年生の生徒のうち、11歳は生徒の2名のみ。あとは、14-15歳の少年が大部分。就学率は上がっているものの、学齢期の児童の多くが学校に通えていない。現実には深刻である。学校数が足りず、年少の児童が通える場所に学校がないことも影響している。学齢期の児童が年長の生徒の中でいじめられているなどの問題も教員からあげられている。

20年以上の紛争の後、学校に戻った年長の生徒は年少の生徒と一緒に学ぶことに対してどのように感じていますか？

14

World Vision

課題—教育の質—

- 約45%の子どもたちが木の下で授業を受けている
- 約80%の子どもたちが地べたや丸太やレンガに座って授業を受けている (JAM 2005)
- 資格を有する教師は全体の13%で、87%が無資格 (EMIS 2010)
- 教科書については、データとしては3人に1冊程度となっているが、地域域差が大きい。UNICEFや他の援助機関の支援による数値となっているが、ロジの問題から遠隔地には配分されていない。州都近くの学校では全員に教科書があるような状態が見受けられる。一方、運搬され切れずに倉庫に眠ったままの教科書も多いことが報告されている (EMIS 2010)




15

World Vision

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- 内戦後の難民・国内避難民の帰還と再統合を促進するために、具体的な活動として元難民、国内避難民とホスト・コミュニティ双方が共生できるように、
 - 水・衛生施設の設置と衛生教育、
 - 内戦後の国の復興を担う子どもたちに教育の機会を与えるための教育支援、
 - そして、内戦後のコミュニティ内外の紛争を平和的に解決できるようプロテクション(人権擁護の考え)にかかわるトレーニング

を2009年5月より二期にわたって実施している。



16

World Vision

教育分野でのこれまでの達成

【教育の質への対応】

- 学校修復(5教室、対象地区児童507人)
- 学校備品(机-75、黒板-5、本棚-1)設置
- 教科書(1,940冊)、教師用指導書(58冊)
- PTA(4委員会)設立・養成(105人)
- 研修の内容は、教育の大切さ、子どもが教育を受ける権利、教育に関わる課題(未就学児童と課題への対応策)、PTAの役割の再確認、モニタリングと報告
- 教師研修(3カ月間のin-service training-4人)・教育言語である英語研修

【教育へのアクセスへの対応】

- 児童労働などによる未就学児童をなくすための啓発活動(4地区4回)




17

World Vision

平和とプロテクション(人権擁護の考え)をコミュニティに広める活動のこれまでの達成

- 女性や子どもの権利の保護やコミュニティ間の係争を平和的に解決するため
 - 平和・プロテクション委員会設立・研修(4委員会、70人)
 - コミュニティ・プロテクション・トレーニングの開催(4回118人)
- 子どもの遊びやレクリエーションや平和教育を通して、平和の文化を促進するため
 - 子どもグループ設立(4グループ)、子どもの権利活動実施(9回)
 - レクリエーション用具(子どもグループ5団体85人)




18

World Vision

少しずつ見られている成果

- PTA研修に初めて参加したPTAのコメント
 - 研修を受けて初めて自分たちの役割を理解することができた。
- PTA再教育研修を受けたPTAのコメント
 - 生徒の親などからお金を集め、現地で手に入る資材で校長室を建てた(写真下、シド小学校)。
 - 生徒の親などからお金を集め、ボランティアの教師に謝金を払った(カカ小学校)。
 - 女兒の就学率が低いので、PTAがコミュニティの住民に対して、女兒に教育を受ける機会を与えるように啓発活動を行っている(ニレツ小学校)。
 - PTAのイニシアティブで、現地で手に入る資材で2教室を建てた(トゥルグアン小学校)。




19

World Vision

紛争が教育に与えた影響

- 教師(志願、強制)や子どもが兵士として紛争中に徴用
- 校舎が破壊、強制排除(国内避難民の避難先の北部で)
- 軍人が教育行政で主導権を握った
- 戦時中、セキュリティ等の問題で、国内避難民の避難先のスーダン首都ハルツーム、南部スーダン、近隣国の難民キャンプでの教育分野での連携・調整がとれていなかった(カリキュラム、教師の報酬など)
- 人材不足—教育行政(行政各レベル)、教員

20

World Vision

教育が紛争、平和構築に与えた(与える)影響

- 教育が紛争に与えた影響
 - イスラム教に基づいたカリキュラムとアラビア語を唯一の教育言語として南部に強制的に導入したことも、20年以上も続いた内戦の発端となった。
 - 教育の機会が南部住民に十分に与えられず、学校や保健施設などが一部地域に集中し、南部住民に何も与えられなかったという不満が今も根強い。
- 教育が平和構築に与える影響
 - 平和構築、子どもの権利などプロテクション(人権擁護の考え)を取り込んだPTA研修、平和プロテクション委員会の設立・養成やコミュニティに対するプロテクション研修を2009年5月より行っているが、少しずつ成果が見られている。
 - 現地で事業を行う上で、支援を通して、コミュニティ内で対立が生じないように、様々な関係者と時間をかけて調整している。

21

World Vision

紛争・戦争のない世界を実現するための我々が目指す教育支援とは

南部スーダン政府の最優先事項は、地域の不公平感をなくすこと。教育は保健と並んで住民が最も望んでいる分野であり、どう住民の期待に応じていくかが安定へのカギ。

- 公平感を重視するあまり、取り組みが大規模となり、政府の能力を超え、対応できない状況も大きな課題。政府の能力の範囲内で、地域のバランスを取りつつ住民の期待にどう応えていくかが問題。
- 少ない政府予算の中で、コミュニティの学校への貢献も重要。地域住民が政府とともに子どもたちの教育にどう取り組んでいくのか、住民とともに考えることが平和構築への一歩ではないか。

22

World Vision

紛争・戦争のない世界を実現するための我々が目指す教育支援とは(続)

アドボカシー(他団体と協力して)

- 現在の教育予算額は南部スーダン政府予算全体の6%。他のアフリカ諸国と比較しても非常に少ない。2011年には11%まで上げることが議論されているが、まだ決定していない。
 - 多くの政府予算がセキュリティや軍兵士に割かれているため。
 - 兵士の武装・動員解除を推進して、兵士の数を減らすことで、軍関係の予算を削減し、他のセクターに配分することが必要。
 - 軍兵士は教育を受けていないため、兵士対象の初等教育や職業訓練も重要な課題。
- 教師からより給料の高い職業に移ることのないように、適切でタイムリーな給料の支払い
- これまでの歴史的経緯、文化などに配慮した教育言語

23

World Vision

スーダンの希望

ガブリエル、20歳、内戦のために学校に行く機会がなかったが、数年前に入学。夢は農業専門家となって村のために働くこと。

ジェームズ、21歳、数年前に1学年からスタートして4学年まで修了。あと1年で卒業を目指し、さらに学んで医師になるのが夢だ。

ブレデータ、16歳、同じ年の旧友の多くは結婚したため学校を去ったが、学び続けて学校の先生になりたい。

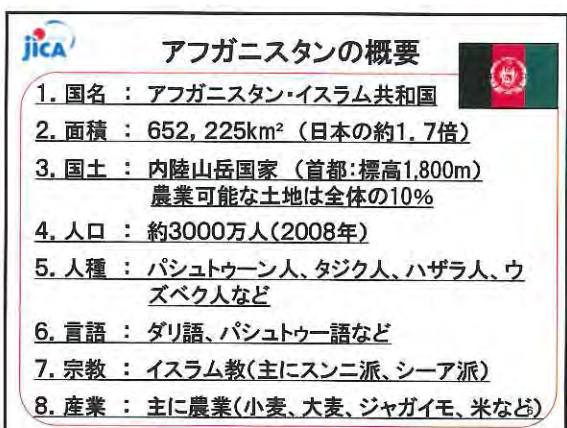
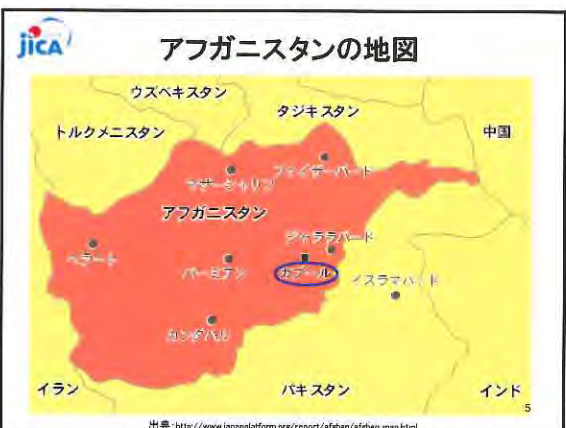
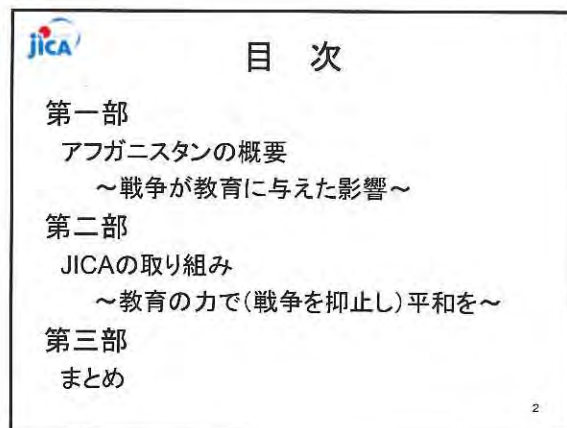
ヨハネス、16歳。学校一の秀才で神学校に就いて教師になるため、早くも近くの教会で説教の練習をしている。

レベッカ、20歳。家族とともに故郷に戻ってきてから学校に通うことができたようになった。得意な数学の教師を目指している。



24





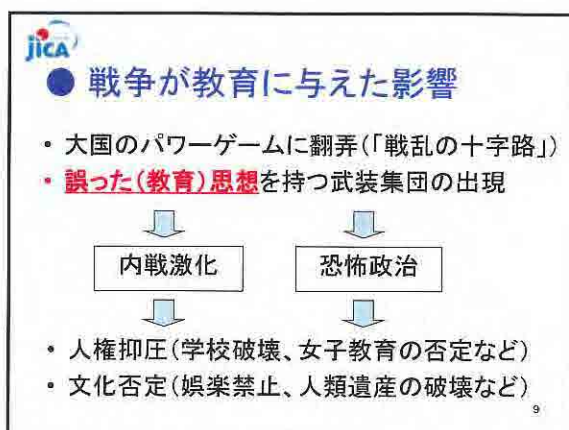
隣国との比較

指標	イラン	アフガニスタン	パキスタン
出生時平均余命 <2008年>	71歳	44歳	67歳
5歳未満死亡率(1,000人あたり) <2008年>	32人	257人	89人
成人(15歳以上)の平均識字率 <2003-2008年>	85%	28%	55%
初等教育就学率(男子) <2003-2008年>	91%	74%	74%
初等教育就学率(女子) <2003-2008年>	100%	46%	57%
国民1人あたり所得 <2008年>	US\$3,540	US\$250	US\$980

出典: http://www.unicef.org/statistics/index_countrystats.html

アフガニスタン略年表

1774年	アフガニスタン人(バシュトゥーン人)による王朝が成立
1919年	イギリスとの戦争に勝利、独立。
1979年	ソ連が軍事介入。ソ連軍と政府軍とムジャヒディンとの戦闘激化。
1989年	ソ連軍が撤退。各派による内戦へ突入。
1996年	タリバンが首都カブールを占領。1999年までに国土の9割を支配。
2001年	米国同時多発テロを契機に、米・英等がタリバン政権に対し軍事行動を開始。同年末タリバン政権崩壊。国内各派代表が和平プロセスに関するボシ合意に署名。
2002年	アフガニスタン復興支援会議が東京で開催。各国・機関の代表が支援策を協議。カルザイ暫定政権議長を大統領とする移行政府が成立。
2004年	新憲法が制定。初の大統領選の実施。カルザイ氏が当選。
2009年	カルザイ大統領再選。



第二部

JICAの取り組み(実績と成果)

- 【教師教育】**
 - 教師用指導書の作成
 - 1万人の教師研修の実施
 - 教員養成校教官の能力強化
- 【特別支援教育】**
 - 授業科目の導入
 - 教科書の作成
 - 教員養成校教官の能力強化
- 【識字(ノンフォーマル)教育】**
 - 地域学習センターの設立と運営
 - 非識字者・識字教師等の訓練
 - 識字行政官の能力強化



1 教師教育への支援

教育の質の向上への取り組み

- 【教師教育強化プロジェクト】**
 - 小学校1-6年生の教師用指導書の作成
 - 約1万人の現職教員に対する研修
 - 教員養成校のカリキュラム開発支援および講義の実践支援




2 特別支援教育への支援

障がいを持つ子どもを受け入れられる
学校と社会をめざして

【特殊教育・特別支援教育強化プロジェクト】

- カブール教育大学と
教員養成校における
授業の導入
- 教科書・教材作成
- 教官の意識改革と能
力強化




13

3 識字（ノンフォーマル）教育への支援

自己実現、生計向上、社会参加を支援する


【ノンフォーマル教育強化プロジェクト】

- 地域学習センター（Community Learning Center: CLC）の設立と運営
- 識字教室・生活技術訓練の実施



【識字教育強化プロジェクト】

- 約1万人に対する識字教育の実施
（カブール市、カブール州、バミヤン州、バルフ州）
- 教育省識字局の行政能力向上支援



14

アフガニスタンにおける基礎教育セクターへの支援

2006以前から 2008 2010 2012

教育協力計画アドバイザー（個別専門家）

教師教育

- 教師教育強化プロジェクト1
2005.6-2007.8
・教師用指導書（1-3年）の開発及び全県100校への配布
・現職教員研修の実施
- 教師教育強化プロジェクト2
2007.9-2010.12
・教師用指導書（4-6年）の開発及び全県100校への配布
・教員養成課程の現職教員教材開発
- 教師教育強化プロジェクト3
2011.2-2015.1
・学校における教師用指導書の活用促進及び授業改善の取り組み強化

教授法改善（個別研修）、女子教育（青年研修）

特殊教育強化プロジェクト
2006.9-2008.3
カブール教育大学のカリキュラム改訂支援

教師教育における特別支援教育プロジェクト
2008.11-2010.12
・教員養成校のシラバス/教科書開発及び能力開発

（後計中）未研修者
学校現場での実践向上

インフラ整備

教育施設を整備（UNICEF経由の無償）、識字センターの設置（UNESCO経由のマルチ協力）

識字教育

- 識字教育強化プロジェクト
2006.3-2008.7
・NGOを通じた1万人の識字教育の能力強化
- 識字教育強化プロジェクト2
2010.4-2014.3
・モニタリング及び研修支援の枠組み開発（研修指標の開発、識字状況報告書の発行、ファシリテーターへの技術支援）

ノンフォーマル教育強化プロジェクト
2004.3-2007.3
・地域学習センターの設立と運営

（目標）児童の拡大と「質の向上」

15

アフガニスタンの教育状況の変化

30年以上の内戦による教育システムの崩壊 平和復興支援による改善

	2002年以前	現在
就学児童数	100万人以下	700万人
教員数	20,000人 （女性教員はほぼゼロ）	170,000人 （うち30%は女性教員）
学校数	3,400校	11,000校
教員養成校の数	4校	42校
教員養成校の学生数	400名	42,000名

16

JICAの基礎教育協力の特徴

～教育の力で平和を～

教師教育
特別支援教育
識字教育
（ノンフォーマル教育）

分野全体
国土全体
制度全体
（行政強化）

包括性
公平性
持続性

（次スライドへ続く）

JICAの基礎教育協力の方向性

～教育の力で平和を～

1. 包括性
（All-embracing）
2. 公平性
（Equity）
3. 持続性
（Sustainability）

偏見
差別
非寛容

打破！

平和構築

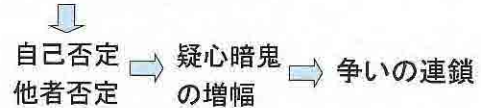
18

第三部

● 紛争・戦争が教育に与える(負の)影響

教育を「人間を利用する手段」として用い、

- 価値判断の基礎となる知識を与えない
- 権威や誤った思想に隷属させる
- 自らの無力さを知らしめる



そもそもですが、教育って...

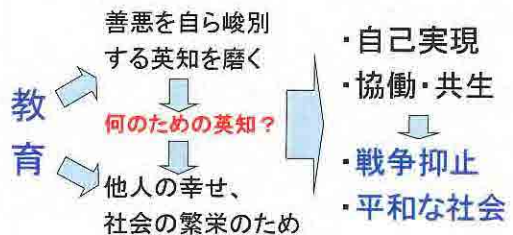


自身に内在する価値、可能性に気づく
(私にも、できる、かも?!)



他人に内在する価値、可能性にも気づく
(人の良さを認められる)

● 教育が紛争・戦争に与える(正の)影響



● 私たち一人ひとりにできること

- 海外へ行くだけが国際協力じゃない!
(どこか遠くにあるんじゃない)
- 今の自分にできることを!
(家庭、学校、職場、公共空間で人に優しく)
- 今はできないけど将来なりたい自分になるための努力を焦らず一歩一歩!
(勉強、自己啓発、資格取得など何でもいいんです)

ご清聴ありがとうございました。

تشکر

タシャコール!

(自由訳: 他者コール
=身近な人に関心を持ちましょう!
知らない人にも声をかけましょう!)

